第62回
2023年8月26日(土)27日(日)に大阪観光大学で
社会教育研究全国集会 関西集会
を開催します

弐号
集会速報
2023.4.11.発行

集会テーマ決定！

人が育ち合う社会へ希望を紡ぐ －あらゆる機会・あらゆる場所で社会教育を－

◆第二回現地世話人会報告

去る三月二十五日、和歌山県かつらぎ町天野において、第二回現地世話人会が開催された。各分科会世話人の皆さんから、分科会の進行状況を伝えていただいた。

集会テーマについては、第61回大会からバトンを受けた「**つながりの力**」や、関係する皆さんの経験や知識を紡ぎ、よりよい社会を実現することを願った事務局案が提案された。

第62回社会教育研究全国集会　第２回現地世話人会
会場：かつらぎ町天野地域交流センター「ゆずり葉」

一言一句に込められた思いを語る議論を経て、「**人が育ち合う社会へ希望を紡ぐ-あらゆる機会・あらゆる場所で社会教育を-**」と決定した。

学習会では、「**天野の里づくりの会**」会長　**谷口千明さん**のお話を伺った。「天野の里をどう維持し、どう活性化させていくか」という課題意識をもち、「**里にある世界遺産、景観、農作物を活かしたむらづくり**」に取り組んでいる。会員それぞれの得意なことを役立てる機会をもち、会員が主役となる活動を続けた結果、移住者が増加し、里の世帯数も増え続けている。

活動の主軸のひとつである「**企業のふるさと」による異業種交流**では、企業と地域がお互いを必要とし、互いにメリットのあるつながりが生まれている。その話を聞いた大学生参加者の一人は、「**外からの人と交流することで、地域の人は自分たちの魅力を知り、地域に誇りを持てるようになる、というプロセス**は、講義で学んだ地域再生の理論を実現した実践だと感じた」と語っている。

「周りの人に恵まれ、取組みを続けてこられた」と話す谷口さん。ここには、**周囲の人の得意なことを知り、活躍の場をつくり**ながら、なによりも**谷口さん自身が楽しみながら活動を続けてきた**ことが実を結んでいる。人々が認められ、認め合える関係をつくることが、「人が育ち合う地域」の実現につながるのかもしれない。

また、谷口さんは「社会教育」という言葉は使わないが、**地域住民が自ら動き出した活動に、多くの人が共鳴して大きなうねりとなっていく。「出発点が当事者であること」**と、その動きを見出し、価値づけしていく存在の重要性を感じる報告だった。

（文・写真　吉水）

集会連絡帳

4／15(土)
13:30～
第3回 全国・現地合同世話人会
会議後に懇親会(日根野「すし半　佳羅守」)
※12:30～全国集会の過去映像上映
会場:大阪観光大学　5号館 2F 大講義室

5／21(日)
13:30
～16:30
社全協関西ネットワーク20周年記念事業
第 62 回社会教育研究全国集会(プレ集会)
～私から始まる「社会教育」と出会う～
まなびの広場
会場:貝塚市立浜手地区公民館

速報後記：集会広報班のメンバー募集中♪希望者は事務局まで
現在のメンバー：佐藤、玉置、舟瀬、吉水、輪玉、山田（班長）
★みんなで取材して記事にした「弐号」、発行しま～～～す♪

第62回 社会教育研究全国集会 関西集会

フィールドワーク
―丹生都比売神社を中心に―

丹生都比売神社の外鳥居をくぐると、「太鼓橋」がみえる。案内をしてくださった谷口さんによると、この「太鼓橋」、昔は人間が通れない橋だったという。今は人間も通ることができるその「太鼓橋」を渡り、中鳥居をくぐれば、「楼門」がみえる。さらに、「楼門」の奥には4つの殿からなる本殿が顔を出す。

フィールドワークの最中、参加者の方から「私の友達が丹生都比売神社のファンで何度も行っている」という話を聞いた。そのときは、「神社のファンってどういうことだ？」と思っていたが、中鳥居をくぐった瞬間に「ファンになる」気持ちが理解できた。

厳かで背筋が伸びるような感覚。歴史ある神社だからこそ醸し出されるそれは、気持ちをスッと落ち着かせてくれる力を持っているようであった。

このように長い歴史をもち、全国的にも「ファン」が多い、丹生都比売神社。フィールドワークの最後の方で、谷口さんは、この小さな天野の里で、そのような神社を守っていくことの大変さも語られていた。

―昼食会―
Cafe 宮殿で食べた天野米

昼食会でいただいた、天野米お食事セットのおいしさといったら…。特に、天野米はとっても甘い。お米だけでも十分おいしいかったが、卵かけご飯にするとその天野米を2度楽しむことができた。

また、具沢山の味噌汁をはじめ、他のおかず達も全部が天野米にマッチしていて、とてもおいしかった。

他の参加者の方とも交流を深めることができた楽しくて、おいしい昼食会だった。

（文・写真　輪玉）

古今東西 おでかけ速報

博物館分科会の現地世話人になってみて

和歌山大学　3年　舟瀬　葵

▼三月二十七日(月)和歌山大学で行われた博物館分科会の全国世話人と現地世話人の顔合わせに参加した。和歌山大学での顔合わせには全国世話人の栗山究(きわむ)さん、浪指拓央(なみさしたくおう)さん、和歌山大学の橋本唯子先生、佐藤祐介先生、同大学の学生である私の5人で行った。▼全国世話人のお二人から2021年に行われた南三陸集会、2022年に行われた九州集会の事例報告を受け、過去の博物館分科会がどのように執り行われたかについて知る機会となった。特に南三陸集会において博物館と市民、学校とのつながりについてのお話を伺い、開かれた博物館である重要性を再認識した。また、そうした博物館の在り方を関西集会においても模索するべきであろう、との課題意識も生まれた。▼現時点で博物館分科会は和歌山県立近代美術館で行われることが決定しており、実践報告者に貝塚市郷土資料室の利用者の方を含む三人が候補となっている。特に、利用者の方の報告を博物館の業務を担っている方々と拝聴できるのは貴重な機会であり、どのような議論が行われるのかと楽しみにしている。▼私が博物館分科会の現地世話人として関わるきっかけとなったのは、学芸員資格取得のための講義の中で“観光施設としての役割も求められる博物館が、どのように社会教育の場を確保し続けるのか”という問いに直面したことだ。所属している観光学部での学びでは“博物館を地域観光資源としてどのように活用するか”という視点に立っていたため、既述の問いは新鮮なものであり、博物館と社会教育の在り方を模索する始まりとなった。▼現地世話人として全国集会に参加できることとなり、博物館の現場を支える様々な立場の方々との意見交換を心待ちにしている。

☆和歌山大学でリアルの顔合わせをしてからは、Zoom 会議にて細かな打合せをしています